

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「文章に説得力をもたせるには」 教材名「文章に説得力をもたせるには」

2 単元の目標

文章の構成や展開について理解することができる。筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開について理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「書くこと」において、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。（B(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。強い言い切りや情報の量だけで説得力を測らない。学習指導要領のB(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。おおむね満足できる状況は、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○文章の主張と理由を取り出す。事例がどの理由に対応するか確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」 【めあて】主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。 〈予想される児童の反応〉 ・主張と関係のない詳しい話が入っている。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。 主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・主張と関係のない詳しい話が入っている。 ・先に理由を示すと事例の意味が分かる。 ・反対の考えへの説明も必要だと思う。	教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。 想定するつまずき：根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・反対の考えへの説明も必要だと思う。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

